



ルにて
由美子（男）割耕智之



出席者

荒本孝一さん
<摩耶兵庫高校教諭>

★市民演劇祭で飛躍！

荒本 高校演劇の全国大会が、全

国高等学校総合文化祭の一環として、今年は神戸で開かれるんです。松尾 演劇が核ですね。高校生の芸術文化活動の全国大会は昨年の千葉大会に統いて二回めです。昨年は急遽決ったので、実質第一回ということで、兵庫県が芸術文化

神戸に演劇の土壤づくりを

●高校演劇全国大会、今年は神戸で！●

座談会

★貿易記念日記念祝典
および講演会開かれ
神戸港が開港して今年で
百十年。貿易が再開して三
十年。神戸港は貿易港とし
て栄え、神戸の街の発展に
大きく貢献してきた。去る
六月二十八日は貿易記念
日。この日「第十六回貿易
記念日祝典講演会」が神戸
商工会議所第三会議室で開
かれた。

務大臣の祝辞披露のあと、
佐橋滋氏（財団法人余暇開発セ
ンター理事長）が「産業人と
余暇活動」と題して記念講
演を行った。余暇こそが人
間の生きがいではないだろ
うかと主張する佐橋氏は、
この講演で「人間だけが出
来るものを創ること、その
喜びが大切。さらには余暇
と仕事が一体になることが
最もだ」と話した。

「神戸貿易デザイン展」

多彩な商品構成を披露
創立九〇周年を迎えたナ
ガサワ文具センターでは、
去る六月二十九日から三日
間△印象たいせつに！一
本のボールペンも企業の顔
になります♪と販売促進ギ
フト、ノベルティ用品を集
めて第一回SPN展(Sales
Promotion Novelty Fair)

メージからの脱却を計り、
実際に訪れた人たちも多彩
な商品構成を再認識。デモ
ンストレーションとしての
成果があがった。ちなみに
最近はノベルティ商品とし
て計算機が最も利用されて
いるとのことだった。



経済ポケット ジャーナル

輸出入の低迷を開拓し、ま
た国内販路の開拓を図り、
あわせて多数のデザイナ―
の試作品および海外の優秀
商品にはコウベグッドデザ
イン賞が授与される。

お問い合わせ／神戸貿易サービスセ
ンター（神戸商貿セントラル
ル6F 延251-12911）

をセンタープラザ11F展示
室で開催した。



商談も成立、第1回SPN展

代表が出ていない。夏の高校野球

と同じで全国二千校の中から十一
校が選ばれて出場権を持つのです

が、県立兵庫高校が惜しかった。

荒本 浅川君がもうちょっと早く
脚本を書いていたら出でていたよ。

すごくいい戯曲でね、きっと出る
であろうと信用していたら落ちて
くれた。(笑)

浅川 取り組むのが遅かつたんで
す。僕等の世代とはどういう世代
かということ、高校演劇の原点だ
と思いますので書いたのですが。

荒本 彼等が育ち、こういう形で
集まるようになったのは、市民演
劇祭だと思います。昭和五十年が

第一回ですが、たまたまアンコ(小
倉啓子さんの愛称)の妹さんの結
婚式にアンコの恩師松井文雄と今
のご主人夏目俊二が飲んでいて

「ともづな」(市民文芸集)に戯曲を
のせるだけではダメだ。在神の団
体で演りたい。高校演劇もノツた
らどうか」ということになり、「そ
れじや！」と選ばせてもらったの
が、当時神戸大学の学生だった吉
川ヨーコさんの「風景」です。

松尾 そのときの市民演劇への
第一回参加者が神崎さんですね。

神崎 ええ、一年生で照明を担当
しました。第二回目の作品は松尾

先生の「RSI37811061
5896TP」そのときは舞台監督でした。

からあれだけ厳しい練習を学校で

はよう耐えて行かんが、いい演出
をしてもらえる一心で耐えていた

小松 それだけみんな力になつて
いくわね。そして各学校に帰つて

力強い作品に昇華させていくのね
荒本 そう。市民演劇祭で持ち帰
つたものを各学校の演劇部に植え
つける。神崎なんか、そのまま卒
業してしまってケシカラーン(笑)

小松 三回めが荒本先生の「隈
た陽は砂の上に」。

松尾 あれは凄い。ロックを材料
にして不毛の社会を描いたもの、
横山次生先生の演出も凄かった。

シアトロの五十二年五月号に劇評
が載りましたね。

浅川 必須クラブで演劇部に入っ
ていて、田中可志子先生に、演つ
てみないかといわれて、自信もつ
て市民演劇祭に参加したけど、自
信などたちまち消え失せて、さん
ざんなめに会いました。(笑)

松尾 森秀人さんに絞られたね。

荒本 ところが彼は熱心でね。い
われたことを全部脚本に書き込ん
でてね。あれにはびっくりした。

浅川 だけどそれが成果には表わ
れなかつたですね(笑)



小倉啓子さん
<劇団神戸女優>



浅川斗志夫君
<兵庫高校三年生>



神崎由美子さん
<百合高校卒業生>

荒本 第二回はできるだけ多く出

そうとしてダブルキャストにした
んですよ。十三校が集つてきた。

松尾 第一回市民演劇祭に出で「
風景」のときは緊張してましたね

神崎 ほんとこわかった。あの雰
囲気。荒本先生の演出だし(笑)

小倉 すごい熱意でした。先生方
と会えばその話ばかりでね。市

民演劇祭に参加すれば観る範囲が
拡がりますからね。

松尾 暮れば三十日、正月は四日
か

★現代高校生はフィーリング的

荒本 神戸市内の高校演劇部が初
めて一堂に会したのは三十一年、
山手学園で合同発表会をやつたこ

とです。アンコも今じや伝説的存

在になりつつある。(笑)

小松 小倉さんたちの時代は、リ

アルなものを自分たちで消化して着実に作りあげる、いわば納得づくの芝居づくりだったけど、今は感覚的というかフィーリングを求めて歌ありドラマあり演奏ありと

いうミュージカル風のものが好まれて、演つて自分たちが楽しんでるみたいな気がするんだけど。

松尾 練習を見ても、友だちとしゃべついて自分の出番がくるとスッと出て行つて演つてる。あんなにうまく切り変わるんですね。浅川 僕らが芝居するとき、時間を受け、腰をすえてジックリといふより「ここはこんな感じで」というのがあると思いますね。端から見れば気軽な気持で演つてみたいだけ僕の方にしてみればある程度譲歩してアピールしよう努めはしてるんですけど……。

神崎 私も高校時代、リアルなもののを演るか、今、流行のフィーリング的で現代的な風刺劇を演るか、バカみたいに議論しましたよ。結局、古典も演つたしフィーリング的なものも演つたんです。

小松 そのフィーリング的なものは若い人たちの何かを作ろうとするエネルギーの固まりのようなもので、わかるのだけれども、今度は私たちの方が感覚的についてい

けない。

松尾 我々が大そうに考えてることを彼らはスッとやつてしまう。

小松 そうなの。そういうセンスを初めからもつてゐるのね。マスク的なものも含めて、現代の多くの若者が一様に持つてゐる。

浅川 最近の若い人は悪い傾向になりよんと違うか?僕は思う。

感覚、感覚といつてイイ所もたくさんあるだろうけど感覚的でも役

者が演つてるときにしゃべつてゐるというのは芝居に対する姿勢としてどうかと思います。感覚的で

ありながらじっくり腰を落ち着けて演つていく体勢にならないと。

松尾 全国的な規模でみたら、若い人と古い人、というのではなく地

方の高校と都会の高校とでは芝居の作り方が違うんですよ。東北や

九州、いわゆる地方の高校では何

年でも同じことを繰り返し演つて

るから上手下手に関係なくとても

厚みを感じますね。ところが都会

の場合にはひと月、ふた月でつくつ

てしまう。洗練されて、きれいにつくつてるけど迫力がない。そ

ういう地方性の違いはありますよね

小倉 劇団神戸でも研究所をして

ますでしょ。福島聰君たちは高校演劇出身で人材としては優秀です。瞬発力はあるんですが、持続性がないように思えるんです。彼らにしてみれば一生懸命で、それ

はよくわかるんだけど楽しみで演

つてるんですね。やはり根を生やして神戸の地における仕事として演劇を見て欲しい。例えば研究所の女の子にどの位続けるの?とい

う意味の質問をしたら、自分ではすごく演劇が好きで熱心に通つてくるのに「さあ?」という返事が

返つてくるんです。要するに半年間が自分で保証できないんですね

小松 何でもいいから、何かに集中したい、という若者の心理があ

るような気がしますが……。ある目的のために演劇をするのではなく、

その瞬間燃えればいいというか、だからものすごくエネルギー・シュー

です。この前ある芝居でコロス役を募集したら一日に三十名近い応募者があったそんでそんなに演

劇を志す人がいるのかと思ったら、そうじやなくて「たとえひと

ときでも何かをやってみたい」という若者が多いということを聞いて、ソレだな!と思つたんです。

神崎 今聞いてて、ズキンときたんですけど、私もどの位続けるか

質問されたら「さあ?」と答える

と思いますね。それは、今が燃えればいいのであって、先のことはまたそのとき決めればいいと……

小倉 私も始めた頃はそうでした今聞いてるとまどろこしくってね

浅川 僕たちにはいい傾向と悪い傾向があつて、いい方に伸びてい

けばいいんだけど……。

荒本 時代が変わったんじゃなくて誰もそういう時期というのがあるんでしょうね。

★生活の中に芝居を見る楽しみを

小倉 神戸の演劇が育つ土壤がもつと創られてもよいのでは?

小倉 優秀な人材ができるけど、まだ少ない。それにせつかく高校演劇を三年間演りながら卒業して、普ツツリというのには残念だわ神崎 私は今、お勤めしていく演劇の方はやめます。やはり両立が難しいようと思えて。

松尾 演劇は観客が育ててくれるものだと思いますよ。

荒本 だから昔の方が土壤はあつた。例えば昔は芝居で生活できただけど今はなかなかできない。

松尾 芝居を観に行って大人が楽しむというのが芝居なんでしょう。

大人が楽しめる芝居であることはもちろんですが、その芝居を大人がもっと観に行けば高校演劇も伸びてくるでしょう。神戸のことを描いた作品やから皆観に行くかといえればそうでもない。シントイ所で仕事してるな、思うときがある

浅川 僕ら高校生にしても、あまり芝居観に行かへん。映画の方がおもしろいとかいうてね。だからおもしろい芝居をつくって欲しい

荒本 小劇場公演が成り立たない

わずかに道化座の「のいえのいえ」

だけ。東京で出来るのになぜ神戸で出来ないのか、一つには芝居が幼いからですね。

小倉 私は大人の芝居をつくることはないと思うんです。それを考

えるとさつきいつたように、五年先のメドが立たないんです。要す

るに今育つべきつある人たちの人数なり能力なりが向上するといふことがはつきりいえないんです

荒本 市民演劇で育つた連中が神戸ずっと続けてがんばってくれたら東京に負けへん思うが。

小松 その刹那刹那の意識がプロ意識につながってないのね。トコトンやる気迫と本物を自覚することが必要ですね。

荒本 何も徹する必要はないと思ふけど、自分のひとつ目の目的として演劇を続けていけばそれが土壤になつていくんですよ。

小倉 生活の一部分として溶け込んで欲しいですね。

小松 教科の中に演劇をとり入れたら、という声もあるんですが、要するに小さい頃からの生活と感覚が大切ですね。母親がテレビを見れば子供も見る……。

神崎 演劇だけに限らず、音楽、映画etc.とにかく出かけて行ったら、という声もあるんですけど、要するに小さい頃からの生活と感覚が大切ですね。母親がテレビを見れば子供も見る……。

小倉 演劇だけに限らず、音楽、映画etc.とにかく出かけて行って観ることに対する楽しみがもつと普及しないと……。

荒本 かつては歌舞伎など子供の頃から観て楽しんで、日常だった松尾 大衆性があつたんですね。高校演劇の最大の欠点は、現在の高校生がこれ程重いテーマをかかえてるのかと思う位の芝居をつくりってる。全国大会なんて特に。あれは高校演劇の構造的欠陥だと思いますね。観る方もシンドイ。

浅川 コンクールには審査員がいるけど、映画は?なんて聞かれる要するにそんなものを求めてらっしゃるのでしよう。

神崎 主題は何か、訴えるのは何か、突つ込まれるから一番にそれを考えましたね。

浅川 コンクールで僕ら高校生の意見は反映されないんでしょうか

小松 コンクール形式の一番の問題点がそれやね。

浅川 審査員は片書きのあるエラ先生方ばかり。僕たちの意見もとり入れて欲しいと思いますが。

小松 そこにある観客が楽しんでいいなと思ったのが入賞すればもっと拡がりがでてくると思う。

荒本 会場の拍手の波で良し悪しがわかりますね。

松尾 全国大会までいけば一位なんて決めなくていいんですよ。

小倉 全国大会の演劇祭でいい。

荒本 そうですよ。そして高校演劇OB、OGたちが集り、がんばって神戸に演劇の土壤を育てる努力をしないといけないです。



水谷 順介さん
<都市計画設計研究所所長>

特集／座談会 神戸の家具・インテリア

神戸の家具 新しい芽ばえに

家具インテリア室内器材の総合展を

★家具の目的性、趣味性が重要

水谷 家具ってのは大きく三つに分けられるんです。まずひとつは実用性。次に確かに家具を使ってはいるんだけど、今のまでいいのかどうかって問題。例えば子供

の学校の家具なんかそうだと思うんですけど、昔は固い机や椅子だったけど、そういうのが必ずしも好ましくないということになつて、パイプとベニヤを使うようになつたりしているんですけど、どうもそういうことで本当にいいのかなつてことですね。もう少し本来のそれそれがもつてている点からいえば、もう一度基本的なことから考え直さないといけないのでないか、目的をもう一度検討する必要があるということですね。單なる実用性じゃなくて、ものを考えるとなればやっぱり木の方がいいんじやないかって問題ですね。それから最後に、趣味性というか趣向性というか、人によつてちがいますけど、建築家仲間だつたらヨーロッパのいいデザイナーの家具をコレクション的に集めたり、新しいデザインではなくても個的なものを欲しがつてゐるのね。

永田 日本における家具の歴史は学校や会社で使うものではなくて家庭で使う家具の場合、戦後のも

のです。実用性の面からの発展だけ、趣味趣向はなおざりにしてきたけれど、これからは個人的な趣味趣向にあうような、家具屋もそれぞれの個性をもつたものを作つていかないといけないという考えはもつてますね。

吉田(穂) 趣味性、趣向性の問題でいい例があるんです。というのは、私の絵描き仲間の息子さんが、まだ所帯をもつていない若い人だけど、ボーナス二回分をつき込んで八十万円の机を買ったんですね。何でそんなもん買つたんかと親父さんは怒つたけど、学校生活では無味乾燥な机でしか勉強できなかつたので、自分で稼ぐようになったから、その机に座つておれば自分が思うことを書いたり、いろいろなことがその机でできる。そんなんものが欲しかった、心の支えやといつてゐるんですね。そういう考え方の若い人もいるんです。若い人がそれだけのお金をかけてでも、ということと、それを仲間に話したらやっぱり同感してくれたということですね。やっぱり彼ら給食が嫌やつたと思うんです。(笑) 落としてもこわれないようなもので育つてきてるわけで、だからそれに対する見直しですね、原点を見直すような。

永田 画一性に対する反発が確かにありますね。



羽場 光廣さん

<入船専務>



高野 敬朗さん

<神戸家具社長>



吉田 俊夫さん

<メーブル不二屋社長>



永田 良一郎さん

<永田良介商店社長>



高月 昭子さん

<建築家・計画工房DNA>



吉田 稔郎さん

<アーティスト>

水谷 確かに高いものを買いたいということ、お金がなくても、安いものなら安いものなりに自分の本当に欲しいもの、一生大事にしたいものが欲しいということですよね。

高野 家具というものは必ずしも部屋にマッチした大きさのものでなければならないということは関係ないみたいですよ、好きな人はは。(笑)

羽場 さっき水谷さんがおっしゃった学校のスチールの机や椅子とかね。別注で木製の家具を使ってるところもあるんですね。例えば甲南学園がそうで、昔作ったのを今でも直しながら使っていますよ。

吉田(俊) やはり私学ではそういうところがあるんですね。

永田 順栄幼稚園の椅子も木製で今も作ってますよ。

水谷 私学ならそういう椅子を使えるけど、公立の学校ではできないんですけど、それと同じ意味でビジネス家具でも役所はスチールの既成品家具をメーカーから入札しないと買えないかも知れないけれど、個性をもつた企業なら自分が会社の性格に合った家具を使うという方向に行くべきですね。

吉田(穂) 学校の椅子の話ではね、アメリカの田舎の学校のことですけど、卒業生が次の新入生のために椅子を一脚ずつ作って卒業

するんですね。自分たちはそれまで使ってきた椅子を持って卒業するんです。

吉田(俊) それもいい方法ね。

★財産として残る家具を

高月 よく住宅の設計をするんですが、その時一番問題になるのが、作りつけの家具にするか、家具として買うべきかの選択なんです。これは新しい家具に替えましょうとか、これは作りつけにしますとか私たちはアドバイスするんですけど、今まで使つた家具を捨て切れないんですよね。それは安い家具でも長い間使つた愛着ともつたないからといふことなんですけど、やっぱり家具が丈夫すぎるんですね。(笑)だから家具を買う時はほど考えて買わなければいけないという反省の時期にきてるんじゃないかなって気がしますね。そうなると家具の質が問われてきますね。

で、ヨーロッパのように消耗器具的なものは作りつけにして、代々残せるぐらいのものを家具としてちゃんとしたものを持つて、孫子の代まで残そうという意識でやらないてきたような気がするんですね。

永田 神戸の家具は孫子の代まで遺産相続になるようなものでなかなかたらいけないと思つてます。

高月 例えは婚礼家具ですけど、今的生活のパターンからいくとほとんど合わないんです。みんな失敗したと思ってるんですね。ところがこれこそ捨てるわけにはいかない。(笑)

永田 婚礼家具ってのはね、日本の家具の発展を助けてるけどね。阻害してる面もあるわけですよ。

永田 うのはね、親が買うから、自分のものという意識がなくて、粗末に扱うか、部屋の狭さもあって充分に使えないのが現状ですね。しかし親の気持ちからいうと買ってやりたいもんです。

高野 婚礼家具を売る立場からいえばね、絶対になかったらすまんですよ。(笑) 使ってないといつても、嫁入りに持っていく着物を入れたりするのもけつこう収納スペースもりますしね。

高月 ただでも昔のように家がつて、そこに持ついく婚礼家具ということではなくて、これからどうなるかわからないという世代にね、やっぱり婚礼家具というものが、今までのパターンでない形でね、別の形で財産としての家具が生まれてこないとおかしい…。

水谷 そうなると本当は家具はいらないね。

高月 結婚して道具をもつていて生活を始めてみればやつぱりもう少しちがう考え方をして選んで水谷 家具の場合は実用性というこ

くれば良かったという思いをもつて人が多いみたいね。

吉田(穂) 若い人には選ぶのはむずかしいでしょ。

永田 だけど最近は若い人たちの意向の方が強くなってきてる事が事実ですよ。

高野 現実にお客さんもね、お嬢さんは壁一面のいわゆるユニット家具を選んでますけど、親の方は昔のような家具でないと気になりません。何か嫁入りらしいんじゃないですね。それこそ子供に残していく家ね。それこそ子供に残していく家具を選ぶね。

高月 ある意味では財産として残ります。(笑) 使つてないといつても、嫁入りに持っていく着物を入れたりするのもけつこう収納スペースもりますしね。

水谷 今はそうでしょうけど、これは変化していくでしょうね。だいたいそんなの持つていけるような家に住める人もいなくなる。

★住宅関連産業の展示会を

これなら欲しいというふうにならないといけないし、家具の場合はそれができますよね。

吉田(穂) 例えは椅子の場合、とにかく座つてみないとわからないでしょ。カタログだけでは見えない。ところがおかしなことに商品に触れないで下さいって書いてある。(笑)

高月 家具ってものは長い時間かけて使つてみないとわからないでしょ。椅子の場合はね、個人的なプロポーションのちがいはありますけど、やはり日本人的プロポーションにあわせた椅子を家具屋の方もやつてるわけなんです。少なくとも輸入物にとびつくのはどうも解せませんね。全然プロポーションがちがうからあうはずがないのにね。

高野 イタリアの椅子は比較的日本人の寸法にありますね。

永田 日本人的な椅子が必要ね。

高月 そう。ところがそれを発展していくと、初めに水谷さんがいつたように家具のない、タタミの方が多いということになつてくる。(笑) 私は学生時代から机と椅子という勉強したことない。ずっと座机や。

吉田(俊) それはちがいますよ。私、今みたいにこうやってタタミに座つてもう足がしごれ……(笑)

実物を見てやつてる人はいないんですよ。だから家具でも実際にあります。だけどそれはおかしなことであつてね、家具でも実物を見て

永田 若いからや。あと十年もしたらこうやつて座つてる方が楽やいいだすつて。(笑)

高野 僕もここ一年ほどベッドを使つてみたけど、どうもいかん。

吉田(俊) そりやあベッドの方がいいよ。家具屋が何をいつてる。

(笑)

吉田(穏) 初めに話した八十万円の机を買った人のことですが、その机をさがすのに一年かかる程度ですね。デパートに行くとある程度はわかるけど、いいのは他にないかと休みのたびにさがし歩いてるんですよ。展示会でもあればいいんですけどね。

永田 大量生産のものは展示会でも開かないし小売店にもわかつてもらえないからするけど、神戸の家具は大量生産して何百点もの注文を一度にとるわけではなく、ほとんどがお客様の要望で作つてるから、展示会となるとウチはこんなのができるんだというひとつデモンストレーションみたいな展示会になつてしまふんですね。羽場 それもあつていいとは思いますが。

吉田(穏) 認識を高めるという主旨の展示会ができればと思いますね。というのは八月に国立国際美術館で椅子の展覧会があるんです。主旨はドイツの椅子とイタリアの椅子とのちがいをさぐるとい

う、デザイン上の問題でしよう

どね、そういうことを国立の美術館がとりあげてやるわけなんです。吉田(俊) そりやあベッドの方がいいよ。家具屋が何をいつてる。

永田 芸術家が発想したものを木工団地で手分けして作つて展示会でも開いたらどうかという案が以前にでてましたね。

水谷 それも設計者や消費者も参加しないと意味がないんですね。例えば木工団地で実際に作つてのところを消費者にみせるとかね。

羽場 展示会をやれば効果が大き

いでしょうね。

高野 木工団地が中心になって呼びかけてやればいい。ただそれぞれが勝手に提出すると非常に無責任なものが出てきますからね。

吉田(俊) それではまたバラバラになつてしまふ。

高野 いろいろなデザイナーや芸術家などのアイデアを分担してやればかなりおもしろいものができますね。

水谷 そうですよ、例えば民芸的伝統的なパートとか、ニューデザインのパートとか、いくつかのテーマを決めてそれに対して参加していくという仕組みをとればね。

羽場 賞を出せばまたおもしろいでしょうね。

水谷 デザインなりで勝負しようということが神戸の街では育つてないつてのが決定的ですね。デザ

イナー的志向っていうか、いいも

のを作ろうという姿勢が神戸には欠けてますね。いいものを作ろうというチームワークがない。神戸ではやってないけど、デザイナーが中心になって作つての側と消費者側とをつなぐようなデザイン運動をやつてる都市がいくつもあるんですよ。神戸ももうそろそろやつてもいいんじゃないかなって気

がしますね。九州のデザインコンテストを最近みましたけど、かなりレベルも高く、なかなかいいものですね。竹製品なんでもすごく立派なのが出てきますね。しかも地場産業のなかから毎年新しいいい製品がどんどん出てきますね。蓄積の効果があがつきました感じです。

永田 家具だけではなく、装飾組合なんかと一緒にやればいい。

水谷 神戸の場合住宅関連産業にいい会社がたくさんあるんだけどね、そのチームワークがないんですね。みんなバラバラで商売してる。もっともっとお互いのものつてるもののが寄りあえば、神戸生活デザインがもう少しできると思う。

吉田(穏) 非常におもしろいものができるという気がしますね。そこで新しい神戸の家具の芽ばえみたま、起爆剤にでもなればいいですね。

△お可川にて△

世界の福祉施設

● 福祉時代の幕開けです。あなたも一冊どうぞ！
欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明著 △社団法人家庭養護促進協会事務局長▽

△カラー八ページ、本文三二〇ページ、定価 一〇〇〇円▽ 送料 二〇〇円

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。

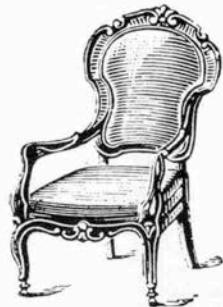
神戸市生田区東町一-三の一 大神ビル七階 ☎ (078) 222-46
振替口座 神戸四五一九六

ハイセンスの紳士服で
最高のおしゃれを



三恵洋服店

神戸・元町4丁目 ☎ (078) 341-7290



神戸のオリジナルな この家具・この一品



木彫り装飾のあるたんす、鏡台。

合板のデザインばかりが優先する最近の家具だが、「うちの家具の特徴はまず丈夫なこと」という伊藤さん兄弟。ほとんどが檜を材料につくられている。鏡台の上やたんすの扉に浮き彫りされる花の彫刻、扉の周囲の四角い飾り彫刻と丁寧な木彫り細工が伊藤家具の手作り家具の暖か味を出している。

木彫りの装飾を始めたのは戦後になってからだそうだが、伊藤家兄弟の手によるといふ。

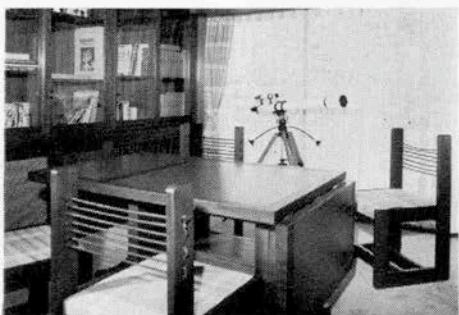
木彫りの装飾は今でも伊藤さん兄弟の手によるといふ。

神戸市生田区北長狭通二—九—一
電三三一一〇四三三

神戸市灘区友田町五丁目二—二
電八五一—三一九一（代）

★木彫り家具

入船の家具造りの特徴は最初から住宅の設計によりこまれたビルトイン・ファニチャー（つくりつけ家具）ができるということ。住宅・事務所・店舗などのトータルインテリアの創造に総合的に取り組み各空間に応じた設計から施工までのすべてのプロセスに全力投球している。今、特に力を入れているのは店舗づくり。若くてセンスあふれるデザイナーたちが熱心に働く様は気持ちがいい。総合的視野から空間づくりができるので写真のように子供部屋でも一味違う落ちつきと統一観が見える。



モダンな感覚が生きる学習机を中心とした子供部屋。

伊藤家具店

入船株式会社

江戸屋△福井

神戸市兵庫区塚本通二丁目一一一

本店 五五五一三一二〇

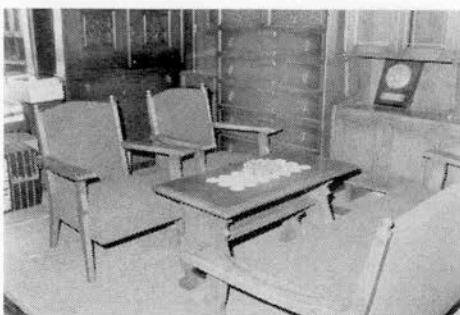
東店 五六六一〇〇五四

★ご婚礼家具

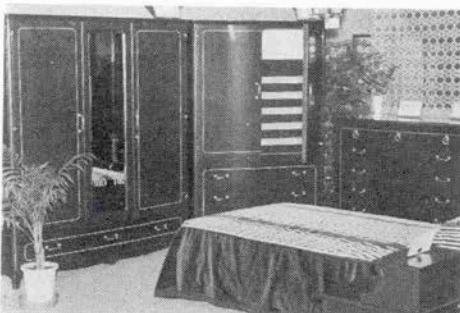


オリジナル家具は能から題を。

明治15年。三宮できつねの嫁入
り福井商店として和家具製造販売
店を商い、東京へ修業に出た創立
者が、江戸指物の技を修めて帰神
有馬道で店を構え、戦後、現在地
に“江戸屋”を創り、手づくりに
よる繊細で優美な家具、つくりに徹
して來た店。この桐のご婚礼家具
は湿気の多い日本の風土の中で息
づいてきた生活の知恵の結集。湿
氣に気づくと目をふくらませ、乾
燥し始めるとともに元にもどるの
でタンス内部の湿り気がなく江戸
屋の作品は現代的なセンスもそし
て職人芸の粹が感じられる。



すぐれた手づくりの技術が生きるオリジナル応接セット。



高級な桜材を使ったベッドとタンスのセット。

河南工芸社

神戸市生田区三宮町二丁目一八〇

三三一一二九九二・七五一四

五八四一五三三五

★応接セット

現社長河南忠雄さんの叔父さんが家具づくりを始め、父の河南忠吉さんが明治40年に家具店を開いたというから神戸では最も古い家具店のひとつである。現社長は、戦後ヨーロッパに渡り、デザインの研究、資料の収集などを中心に家具づくりを観察。最近はインテリアを総合的に扱う仕事も多くなってきたが、つまりそれは家具を室内全体のインテリアとして総合的に考えることからによる。すぐれた手づくりの技術とよいデザイン、古い伝統と信用とによってオリジナル家具が誕生するわけだ。

★ベッドとタンスのセット

垂水の神戸木工センターに工場をもつ株式会社たかねやも手造りでオリジナルなデザインの洋家具を手がけている。商品は東京の西武をはじめ、百貨店や専門店に卸されているが、神戸ではお目にかかるのが残念。写真はベッドを中心にして洋ダンスや和ダンスなどを配したセットで、高級な桜材を使つたもの。マホガニー仕上げを施された表面の赤味かかった色合いとすつきりしたデザインが美しい、金具や扉の形にも細かい心配りがされている。

たかねや

神戸市垂水区多聞町小東山

神戸木工センター内

七八四一五三三五

永田良介商店

神戸市生田区三宮町一 大丸前
三九一—三七三七

佐々木家具店

神戸市生田区中山手通二—一八
二四一—三二三二

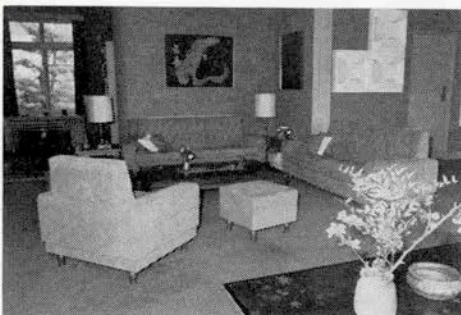
神戸日建

神戸市葺合区御幸通三—二—一〇
二五一—三五二五

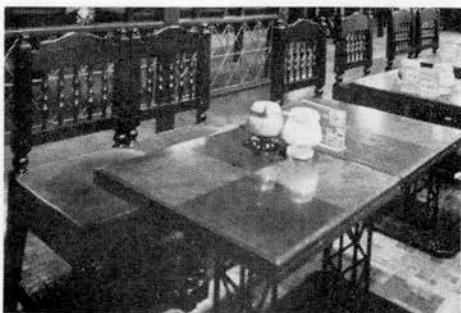
★ご婚礼家具



106年の伝統につちかわれた婚礼家具セット。



北欧ムード漂うシンプルな応接5点セット。



くつろぎの空間を演出 (UCC カフェメルカード)

神戸に育つて106年。欧風家具の永田良介商店は、神戸の草分け的存在である。ナラの木を扱って自然の木目の美しさを表わし、飽きのこないデザインで手作りで仕上げている。和室にも洋室にもピッタリ落ち着く雰囲気が使い手にはのぼのとした暖かみを伝える。ご婚礼家具は三点セットの他に最近はユニットの組み立て式が加わって機能性が若い女性に人気。ユニットは特に鏡もはめ込まれて使い易い。良い家具を多少お値段は張つても一点一点計画的に自分のものにしてほしいもの。

この店の特徴は中山手という場所柄もあって8割が外人客で占められている。それもヨーロッパ系の人が多い。外国人の場合インテリアに対する知識が深く、はつきりしたイメージをもつて家具を注文するので、日頃から歐州家具の研究に余念がない。ユニークな日本式座敷家具。例えば火鉢型テーブルや長火鉢を、最近どの外人宅からも注文をうけるそうだ。お客様の意向に合わせて、オリジナルな家具を一品ずつていねいに仕上げる姿勢は創業60年の歴史から育まれているようだ。

「心の通う店創り」がモットーの店舗装備のプロフェッショナル神戸日建。「商業空間と居住空間とは自ずからその目的が異なり、從来からのインテリアの意義づけからみ出るものが多くあります。それらの問題を解決していくことが商業施設に携わる私たちの使命といえます」と小野原社長は語る。写真のテーブルと椅子はオリジナルで、テーブルの足は異型鉄筋。コンクリートの下地素材であつたのを表に押し出してデザイン化した。新しいオリジナリティの開発に余念がない。

★応接セット

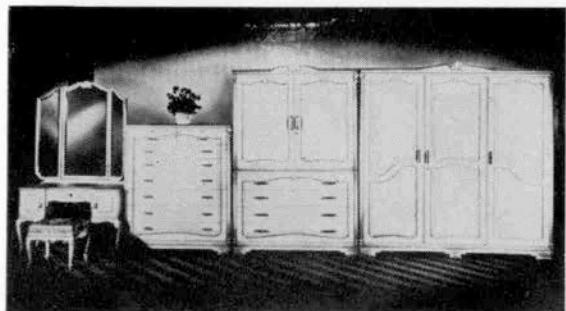
★店舗装備・設計・施工

メープル不二屋

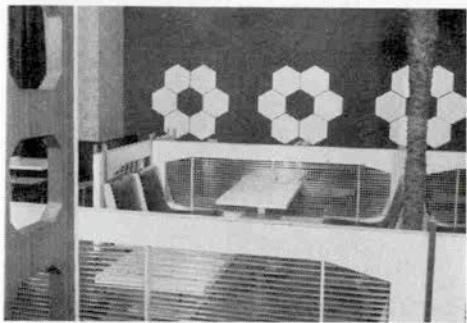
生田区三宮町三一五 トア・ロー

ド・エス三九一—〇五三五

★ご婚礼家具



文明開化の100年前から港神戸に



個性ある店づくりを展開する丸和オリジナル（マリーン）



クラシック調の和ダンス

創業明治8年。ミナト神戸の豊富な国際感覚に支えられた手づくり家具は、ハイカラの伝統をうけついで、シックな英國調スタイルのクラシックファニチャリーがお得意。この一品は、初代の吉田友一社長が昭和42年に、まだ日本では当時新しいワードロップの、品のいいピンク色のアンチック仕上げにデザインしたフランス調ご婚礼家具。夢のあるエレガントな姿と機能的なトータル性もそなえた豪華な傑作。374万円。

富な国際感覚に支えられた手づくり家具は、ハイカラの伝統をうけついで、シックな英國調スタイルのクラシックファニチャリーがお得意。この一品は、初代の吉田友一社長が昭和42年に、まだ日本では当時新しいワードロップの、品のいいピンク色のアンチック仕上げにデザインしたフランス調ご婚礼家具。夢のあるエレガントな姿と機能的なトータル性もそなえた豪華な傑作。374万円。

丸和建築

デザインルーム

神戸市生田区北長狭通五丁目二二

電三四一—五三八〇

★店舗インテリア

これまでに設計施工した店舗数は主なものだけでも三百以上になる。生田区海岸通りにある喫茶店「マリーン」もその一つ。

設計の基本は機能導線と客の誘導導線をどうするかにある。当然のことながら、その店が繁盛することを第一に考え、店の従業員が動きやすく、客が入りやすい店づくりを展開する。

たとえば、「マリーン」のテーブル、椅子、壁面の装飾などすべてが「丸和オリジナル」。二十名の熟練した家具職人と店舗専門職人がそれを支えている。

丸尾工作所

神戸市葺合区旭通五一四
電二二一一二〇九六

★和ダンス

国鉄三宮駅東の高架下にある丸尾工作所は創業65年。神戸でも最も古い洋家具商のひとつで、手造りの神戸家具の良さを今も大事に伝えている。婚礼家具の別注に応じるほか、室内装飾、店舗設計にも力を入れており、ネクタイ専門店の元町バザーなど、手がけた店は多い。写真のクラシック調の和ダンスは婚礼家具セットのうちの一品で、洋ダンス、整理ダンス、鏡台など全て同じデザインの意匠が施されている。ナラ材で、手彫りの木彫はさすがに豪華。四点で一二〇万円というから安くはないが、あとあともサイドボードや吊り戸棚など、いつでも同じデザインのものを注文でき、一品一品買足していくのが楽しみである。

太陽はともだち



顯微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123

65

新発売

ROSEMONDE ロズモンド

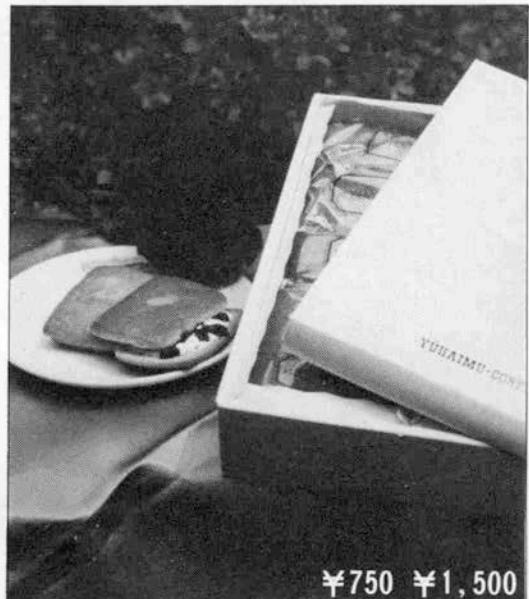
高級ワイン

カリフォルニア産レーズン

甘みをおさえたクリームを

まろやかな手づくりのソフトサブレで

サンドしてみました



¥750 ¥1,500

北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市垂水区熊内町1-8(南蛮美術館東隣)TEL 221-1164

■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸アパート・元町店